

平成14年(2002年)  
12/1  
**広報**  
**たかやま**  
第931号

市民と市長  
の面談日 12月25日(水)  
午前9時30分から11時30分ま  
でに気軽におでかけください

ホームページ  
高山市  
http://www.hida.jp/  
飛騨地域合併推進協議会  
http://www.hidanet.  
ne.jp/~gappei/



例年より早い積雪で雪化粧した乗鞍岳  
△中腹に見える白い三角形は「飛騨高山スキー場」

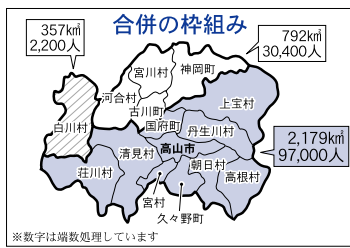
飛騨地域合併推進協議会は、これまでに8回開催され、市町村合併に向けての協議が行われてきました。このほか、審議会や幹事会が随時開かれ、いろいろな項目について具体的な話し合いが行われています。  
合併は、従来の市町村の枠にとらわれず、新しい高山市のまちづくりをみんなで一緒に考えていくことです。あらためて、市町村合併について考えてみましょう。

**なぜ、合併が必要か**

「どの町村と合併するの？」  
「市の名前はどのようなもの？」  
最近、皆さんの家庭や職場でも、こんな話題が何度か出たのではないのでしょうか。  
その一方で、そもそもなぜ合併しなければならないのか、という疑問を持っている方も多いと思います。このことについては、これまでも「広報たかやま」でお知らせしていますが、最大の理由は「国の地方分権施策が進められる中、現在の市町村の区割りでは、これからの社会の変化などに対応できないため」と言えるでしょう。大きな自治体になることでムダが省け、役所の仕事にさらに効率よくできるよくなることを考えられています。

**合併の相手は？**

合併はよく「結婚」にたとえられます。結婚するためには、相手のことをよく知り、条件などについて調整をして合意しなければなりません。飛騨地方のうち、益田郡は郡内の5町村で合併について合意し、11月1日に法定協議会が設置されました。高山市と大野郡・吉城郡は任意の協議会で協議した結果、白川村は単独で存続することになりました。また、古川町・神岡町・河合村・宮川村の4町村は、1つの市になることで合意し、11月8日に法定協議会が設置されました。  
この結果、大野郡7町村、吉城郡2町村は、高山市に編入合併することになりました(地図参照)。今後、各市町村



※数字は端数処理しています

**合併の基本原則**

合併するためには、まず、各市町村が合併について共通の考え方を持たなくてはなりません。その試案として、高山市は8月に11項目にわたる「合併の基本原則」を示しました。

**第4回合併審議会開催**

その後、合併推進協議会などで話し合いが重ねられ、11月10日の協議会において、高山市は一部を修正したものを示し、議論が行われました。主な内容は下表のとおりです。

**合併の基本原則(修正後)**

項目	主な内容
合併市町村	高山市・丹生川村・清見村・荘川村・宮村・久々野町・朝日村・高根村・国府町・上宝村
合併方式	行政の空白期間を置かず、行政・負担水準の早期同一化を考え、編入合併方式とする
合併期日	平成17年2月1日
市の名称	高山市が適当
市の事務所位置	現高山市役所の位置 現町村役場は支所
議会の定数	法定定数は30人 合併後6年間は特別定数の36人とし、現町村から最低1人は選出する
地域審議会の設置	現町村ごとに設置し、期間は10年間
建設計画	各地域の発展と住民福祉の向上につながる適切で実効性のあるものとする
行政水準	原則として高山市の水準
負担水準	原則として高山市の水準
農業委員	国で見直しが行われているため、推移を見て別途協議する

で構成されています。今回の審議会では、経過報告などに続いて、委員から次のような意見が出されました。市民の利便性を考えると、名称は「高山市」がよい。「飛騨」という名称は、現在の1市3郡共有のものであるという認識が必要。市長は、対等互譲の精神を忘れず、リーダーシップをとってほしい。各町村で行っている小中学校の海外派遣は、合併後も続けてほしい。しっかりと市町村建設設計画を立て、将来どうしていくかを明確にするべき。合併すれば、財政力が落ちるのは明らかであり、そのことを市民にも本音で説明しておくことが必要。後から「合併は失敗だった」と言われないようにするために、合併しなかった場合、各自治体が将来どういう状況になるのかを明らかにしておくべき。

今後、皆さんから出された意見などを参考にしながら、市町村合併を進めていきます。

**市民説明会を開催**  
11月26日から市内5会場で開催に関する市民説明会を開催しています。初日の西一色町コミュニティセンターには約50人の市民が集まり、市長の説明を熱心に聞きました。出席者からは、合併後の市政に対する考えなどについて質問が出されました。市長は「財政状況は今後も厳しくなるが、さらに行政改革を進め、住民サービスを維持していきたい。自然・文化など豊かな資源を生かしたまちづくりが大切であり、市町の基本方針となる。市町村建設設計画については、各町村の意見を聞きながら進めていきたい」と答えました。

企画課  
☎3513131